

觀世流

# 綠泉會

令和二年 第二回例会

五月十六日(土)

午後一時開演

喜多六平太記念能楽堂



「鶴 白頭」中所宜夫 (撮影 芝田裕之)



籠太鼓着用面(澤井十人江美法作)

能 Noh ..... 籠太鼓 Koutaku ..... 杉澤 陽子

狂言 Kyogen ..... 富士松 Fujimatsu ..... 大藏吉次郎

能 Noh ..... 鶴 白頭 Tsuru Shirushi ..... 鈴木 啓吾

# 能 籠太鼓

清次ノ妻 杉澤 陽子  
 大鼓 佃 良勝  
 小鼓 森 貴史  
 笛 槻宅 聡  
 籠主ノ下人 善竹大二郎

後見 河井 美紀  
 地謡 新井麻衣子  
 藤村 答 中所 宜夫  
 吉留 敬高 坂 真太郎

# 狂言 富士松

太郎冠者 大藏吉次郎 主 榎本 元

仕舞 兼平 桑田 貴志  
 東方朔 河井 美紀 新井麻衣子  
 杜若 津村禮次郎  
 中森健之介 佐久間二郎  
 永島 充 坂 真太郎

# 能 鶴

舟人 鈴木 啓吾  
 旅僧 殿田 謙吉  
 大鼓 原岡 一之 太鼓 吉谷 潔  
 小鼓 住駒 充彦 笛 一噌 隆之  
 里人 善竹富太郎

後見 墨 敬子 河井 美紀 坂 真太郎  
 中所 宜夫 新井麻衣子 永島 充  
 地謡 中森健之介 中森 貫太  
 桑田 貴志 佐久間二郎

## 附祝言

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。演能や他のお祭りの迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

〔終了予定午後四時〕

### 能：籠太鼓（ろうたいこ）

九州松浦の何某（ワキ）が登場し、家来の関の清次が罪を犯したので籠に入れた事を語り、下人（間狂言）にその番を申し付ける。しかし清次は既に籠を抜け出ていた。松浦某は清次の妻（シテ）を引き立てて来て行方を尋ねるが、知らぬと言うので女を籠に押し込める。下人は女を罵るが、松浦某はこれを咎めて、籠に鼓を掛けて時を打って番をするように命じる。

その夜、女は狂気する。肩脱ぎに肌を露わに泣き伏す様は、番をする下人にもそれと知れ、松浦某もやって来る。女は、清次の行方を教えれば放免すると言う松浦某の懐柔を拒み通し、遂に夫婦共に赦すとの言葉を得る。それでも狂気は収まらない。下人が時を打った鼓に目をとめ、時の知らせをなぞるようにこれを狂い打つ。最初夕暮れの六つの鼓から始まり、「五つ」の鼓は偽りの契り、「四つ」の鼓は世の中の恋」と時を遡るように進み、次は九つの夜半に夫の面影が立ち現われて、身代わりになっていることを喜び、籠を夫の微に見立てて、閉じ籠った。

松浦某が八幡神に誓言するに至って、遂に狂気は去り、女は清次の行方を明かす。松浦某は誓言に従い、親の十三回忌を理由に罪を許す。

### 狂言：富士松（ふじまつ）

無断で旅をしていた太郎冠者が戻ったと聞き、主人はその私宅へ行き太郎冠者を叱るが、富士参詣と聞いて機嫌を直す。太郎冠者が富士の松を持ち帰ったと知り、その松を見ればどうしても欲しくてたまらない。松をかけて連歌で勝負をするが、太郎冠者は達者で、主のくり出す上の句下の句に、それぞれ巧みに下の句上の句を付ける。主は次第に不満を募らせ、最後に太郎冠者は「蝶帖腹立つれば鶴喜ぶ」と、怒っている主人をケラに例える句を付けたため、主はこれを叱りつける。

### 仕舞

#### 東方朔（とうほうさく）

漢の武帝の治世を称えて、東方朔と西王母の二人の仙人が舞を舞う。やがて夕陽も傾き、二人は武帝に暇を告げ、再訪を促されるが、そのまま龍に乗って雲路遙かに帰って行く。

傾き、二人は武帝に暇を告げ、再訪を促されるが、そのまま龍に乗って雲路遙かに帰って行く。

### 兼平（かねひら）

今井四郎兼平は木曾義仲の乳兄弟で、豪勇と忠義で知られている。琵琶湖のほとり粟津の合戦で主従二騎となった兼平は、義仲に切腹を促し、その防ぎに奮闘している。敵の中から声があがり、木曾殿が討たれたと聞き、最期の供せんと、太刀を口に咥えて馬上から落ち、身体を貫かせて自害し果てる。

### 杜若（かきつばた）

三河国八橋でその昔在原業平の歌に詠まれた杜若の橋が、旅僧の夢中に現れ、草木までも成仏する有様を見せる。あたりには杜若に菖蒲も混じり卵の花も咲いている。その白い花に誘われるように夜が白々と明ける。

### 能：鶴（ぬえ）

諸国一見の僧（ワキ）が三熊野での山籠を果たし西国行脚に向かったところ、芦屋の里で日が暮れた。里人（間狂言）に宿を請うが禁制を理由に断られ、洲崎の御堂に夜を過ごすこととなった。夜更け、海に舟影が立ち、茫として人影（前シテ）が見える。苦しみと嘆きに満ちている風だが、言葉をお互い交わせば「一声の屋の灘の塩焼き暇なみ黄楊の小櫛はささず来にけり」と古歌を引く風雅も見せる。舟人は鶴の亡心だった。近衛院の時、帝の災厄となり源頼政に退治された子細を物語り、再び舟を揺らめかせながら帰って行った。

様子を見に来た里人に鶴のことを尋ね、僧はその亡魂を静めようと海に向かって読経する。鶴（後シテ）が本性の姿で現れ、頼政に退治された有様を再び詳細に物語る。時に頼政の仕種をなぞりつつ舞う舞は、頼政の放つ矢に射抜かれて死んだ有様、頼政が御剣を下賜され、歌で名を上げた事、死骸をうつほ舟（丸木をくり抜いた舟）に入れて流された顛末を描き、最後は夕日と共に海に沈んで姿を消す。

**入場料**  
 会員券（年4回） 一般 20,000円 学生 10,000円  
 1回券（当日券） 一般 6,000円 学生 3,000円

**申込先：各出演能楽師または緑泉会まで**  
 杉澤 陽子 TEL&FAX 03-6326-6645  
 鈴木 啓吾 TEL&FAX 03-3269-7018



第2回例会  
**2020. 5.16 (土) PM1:00 (開場 12:00)**  
**喜多六平太記念能楽堂**  
 〒141-0021 品川区上大崎 4-6-9  
 ☎ 03-3491-8813

JR・東急目黒線・地下鉄三田線・南北線の目黒駅西口より徒歩7分  
 香港園手前の道を左折し約400m直進、杉野学園体育館手前を左に入る。

※ 駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

令和二年 第3回例会 9月5日(土)

能… 田村 Tamura …… 河井 美紀  
 能… 一角仙人 Ikkaku-Sennin …… 桑田 貴志